



## <取材のお願い>

2023年8月10日

函館工業高等専門学校

国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST)

さくらサイエンスプログラム推進本部

モンゴルの学生が函館高専生と共に新たな視点で海洋問題の解決策を考える

～ 函館を起点とした国際協力活動への発展を目指して～

函館工業高等専門学校では、8月20日(日)～8月26日(土)、モンゴル3高専(新モンゴル学園高専、モンゴル科学技術大学付属高専、モンゴル工業技術大学付属高専)から、高専生9名、引率教員1名、計10名を招へいし、「海洋」「海産資源」をテーマとした科学技術体験プログラムを実施します。

島国である日本は海産資源に恵まれているものの、海洋汚染や漁獲量の減少、漁業の後継者不足などの問題を抱えています。一方、内陸国であるモンゴルは鉱山資源などに恵まれているものの、その加工技術がないことや、砂漠化などの課題を抱えています。本プログラムの目的は、モンゴルの学生と本校の学生が協働で両国の問題に取り組むことで、自国にない未知の課題に対する課題解決能力の向上や、多様な視点を取り入れることのできるグローバルマインドを持った技術者を育成することです。

本プログラムでは、「海洋」「海産資源」について、知る・見る・体験する、を実践します。北海道教育大学函館校の協力による講演会で知識を深め、函館市国際水産・海洋総合研究センターなどへの訪問とキングサーモンの解剖、漁港、市場、造船所等見学、遊漁船からの船釣りなどを体験します。さらに、本校学生と共に課題を発見し、新たな視点で解決策を導き出すための議論を深めます。また、プログラムの実施後には、本校学生をモンゴルに派遣し、モンゴルの「陸」の課題を解決するための協働活動も想定しています。本プログラムをきっかけとして、函館を起点とした国際協力活動に発展することが期待できます。

本プログラムは、科学技術振興機構 (JST) 主催の「国際青少年サイエンス交流事業 (さくらサイエンスプログラム)」\* に採択されたものです。

\* 「国際青少年サイエンス 交流事業 (さくらサイエンスプログラム)」科学技術分野における日本と海外の青少年の国際交流を推進する、国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) の事業です。2014年の事業開始以来、約35,000名以上の青少年が来日し、そのうち約7%が学術や就業を目的として再来日しています。

<https://ssp.jst.go.jp/>





つきましては、モンゴルの学生たちが講義で「海洋」「海産資源」を学ぶ様子、函館市国際水産・海洋総合研究センター、養殖場・漁業組合にて先端技術を体験する様子、本学の学生と議論をする様子、最終プレゼンテーションの様子などを取材していただきたくお願い申し上げます。なお、参加者をはじめ、実施担当の須藤准教授へのインタビュー取材もアレンジが可能ですので、ご希望の方は担当者までご連絡くださるようお願いいたします。

#### 【実施内容】

- 「海洋」「海産資源」についての講義
- 本学学生との議論
- 函館市国際水産・海洋総合研究センター訪問、キングサーモンの解剖
- 漁港・市場・造船所等の見学
- 遊漁船体験
- 最終プレゼンテーション

#### 【研修日程概要】

8月20日(日)	午後：函館到着
8月21日(月)	午前：オリエンテーション 午後：函館市内の海や市場などを視察、青函連絡船記念館の見学
8月22日(火)	午前：「海洋」「海産資源」講演会 午後：議論・課題発見
8月23日(水)	午前：漁港、造船所の見学 午後：函館市国際水産・海洋総合研究センター訪問、キングサーモン解剖
8月24日(木)	午前：遊漁船体験 午後：議論・課題解決
8月25日(金)	午前：議論・課題提案・課題解決・プレゼンテーション準備 午後：最終プレゼンテーション
8月26日(土)	午前：函館出発 午後：離日

---

#### ■本件に関する取材申し込み・お問い合わせ先

函館工業高等専門学校  
総務課研究推進係  
(担当：藤田)

#### ■国際青少年サイエンス 交流事業（さくらサイエンスプログラム）に関するお問い合わせ

JST さくらサイエンスプログラム推進本部企画運営室  
(担当：田中(禎)、太田)